

時間割コード	Q4600900	開講年度	2026				
授業題目	教育相談の理論と実践【第4欄】					担当教員	横嶋 敬行
英文授業名	Theory and Practice of Educational Counseling						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生	L , S , T , A , F
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	児童生徒の発達状況に即して、個々の心理的特質や教育的課題（不適応や問題行動等）を適切に把握し、支援するために必要な知識（カウンセリングの意義、理論、技法に関する基礎的知識を含む）について学ぶ。また、いじめ、不登校、虐待等の特定の課題に対する教育相談の進め方（支援計画、学内の体制整備、専門機関との連携）について習得する。 本授業では、担当教員の教育現場等における実務経験を活かしながら講義を行う。パワーポイントのスライドによる講義やロールプレイ等の演習等を行いながら、教育相談やカウンセリングの基礎的な理論や技法を学ぶ。 本授業は、担当教員の学校現場における教員としての実務経験を活かして講義を行う。						
(5)授業のキーワード	教育相談，カウンセリング，教職						
(6)授業計画	第 1 回（ 9月28日 ）：オリエンテーション・教育相談の意義と内容 第 2 回（10月 5日 ）：教育相談の定義と歴史的変遷 第 3 回（10月14日）：児童生徒の問題の把握（ストレスのメカニズム） 第 4 回（10月19日）：児童生徒の問題（精神医学的理解） 第 5 回（10月26日）：児童生徒の問題（心理学的理解） 第 6 回（11月 2日）：カウンセリングの理論と技法 - 精神力動論 第 7 回（11月 9日）：カウンセリングの理論と技法 - 来談者中心療法 第 8 回（11月16日）：カウンセリングの理論と技法 - 認知行動論 第 9 回（11月26日）：児童・生徒の問題の理解と対応（不登校） 第10回（11月30日）：児童・生徒の問題の理解と対応（いじめ） 第11回（12月 7日）：児童・生徒の問題の理解と対応（虐待） 第12回（12月14日）：学級集団づくりにおける教育相談の役割 第13回（12月21日）：発達支持的・課題予防的教育相談 第14回（ 1月 4日）：保護者に対する支援 第15回（ 1月18日）：教師のメンタルヘルス・まとめ、授業アンケート（最後の15分で実施） 最終レポートの提出期限は、第15回の授業から一週間後とする。						
(7)成績評価の方法	毎授業での小課題やグループワーク等への取り組み・態度（50％），最終レポート（50％）に基づいて，総合的に判断して評価する。						
(8)成績評価の基準	毎授業で提出する小課題は以下の観点から3段階で評価を行う。 授業の内容や出されたテーマを踏まえた記述となっているか 自身の考えを述べる事ができているか 論理的に文章が構成・展開されており，質・量において十分か 3項目すべてを満たしていれば「かなり上にある」，2項目を満たしていれば「やや上にある」，1項目を満たしていれば「水準にある」。 最終レポートの評価基準は以下のとおりである。 授業で学んだことに関連させながら論を展開できているか 具体的な指導や支援の方法について言及することができているか 自身の考えや今後の展望を具体的に論じることができているか 論理的に文章が構成・展開されており，質・量において十分か 上記の ～ のうち，すべてを満たしており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」， ～ をすべて満たしていれば「かなり上にある」，3項目を満たしていれば「やや上にある」，2項目を満たしていれば「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	・ 毎回，授業の終わりに次回取り上げるテーマについて小課題等を課すので，取り組んだ上で次回授業の参加すること。事後学習は，授業資料等を活用して復習すること。 ・ 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とする。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間60時間（4時間×15回）＝ 90時間						
(10)履修上の注意	・ 受講時のルールや注意点は第1回の授業で詳しく説明するので，受講を検討している場合は必ず確認すること。 ・ 授業の出席は出席確認システムと合わせて，毎授業で別途確認を行う。 ・ 普段の生活やこれまでの経験を振り返る中で，授業の内容と自身や身の回りの人，社会等を照らし合わせながら，人の発達や心理について探究すること。						
(11)質問,相談への対応	質問・相談は授業前後，面談，メール等で受け付ける。面談を希望する場合は，なるべく事前にメールで希望日時を相談すること（t_yoko@shinshu-u.ac.jp）。						

(12)授業への出席	本授業は「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が6回以上になると、授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。
【教科書】	指定なし（レジュメ等の資料を配布する）
【参考書】	・橋本創一・三浦巧也・渡邊貴裕・尾高邦生・堂山亞希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔編「教職課程コアカリキュラム対応版 キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育」福村出版 ・藤井善章／小山茂喜 編著「教育実習・介護等体験 安心ハンドブック」学事出版 ・その他、授業の中で適宜紹介します。